

社会福祉法人 善光会
令和5年度 事業報告書

目次

第一章	法人全体事業報告	1
第二章	特別養護老人ホーム フロース東糀谷	
Ⅰ.	特別養護老人ホーム フロース東糀谷(介護老人福祉施設)	4
Ⅱ.	ショートステイ フロース東糀谷(短期入所生活介護)	6
Ⅲ.	老人デイサービスセンター フロース東糀谷(地域密着型通所介護)	8
Ⅳ.	デイサービスセンター フロース東糀谷(認知症対応型通所介護)	10
第三章	介護老人保健施設 アクア東糀谷	
Ⅰ.	介護老人保健施設 アクア東糀谷(介護老人保健施設)	12
Ⅱ.	介護老人保健施設 アクア東糀谷(短期入所療養介護)	16
Ⅲ.	介護老人保健施設 アクア東糀谷(通所リハビリテーション)	17
第四章	障害者支援施設 アミークス東糀谷	
Ⅰ.	障害者支援施設 アミークス東糀谷(施設入所支援/生活介護)	18
Ⅱ.	障害者支援施設 アミークス東糀谷(短期入所)	20
Ⅲ.	障害者支援施設 アミークス東糀谷(生活介護/通所)	22
第五章	特別養護老人ホーム バタフライヒル大森南	
Ⅰ.	特別養護老人ホーム バタフライヒル大森南(介護老人福祉施設)	24
Ⅱ.	ショートステイ バタフライヒル大森南(短期入所生活介護)	26
第六章	特別養護老人ホーム バタフライヒル細田	
Ⅰ.	特別養護老人ホーム バタフライヒル細田(介護老人福祉施設)	28
Ⅱ.	ショートステイ バタフライヒル細田(短期入所生活介護)	30
第七章	フラクタルビレッジ 西六郷・羽田・大森南 (認知症対応型共同生活介護)	32
第八章	ケアサポートセンター リンクス羽田・大森中(居約介護支援)	33
第九章	サンタフェ総合研究室(福祉事業者等への経営支援事業他)	34
別紙1	施設別年間行事实施報告書	巻末
別紙2	年間職員研修及び職員会議実施報告書	巻末

第一章 法人全体事業報告

1. 法人事業の理念

- (1) オペレーションの模範となる
- (2) 業界の行く末を担う先導者になる

2. ビジョン

- (1) 諦めない介護
- (2) 新たな価値を生み出す真の介護DX化
- (3) 前に進み続けるための組織の強化
- (4) 社会変革のための訴求と先導

3. 令和5年度の経営方針

“介護テクノロジーを活用した効率的オペレーション”

“物価高騰など外部環境の変化に柔軟に対応し、お客様に安定し継続した生活を提供”

令和5年度も、介護福祉業界に対して介護品質向上とオペレーション効率化への意識啓発を行ってまいりました。併せて、善光会で確立したオペレーションモデルが国の介護保険事業を支える経営基盤の一つとなるための活動に注力してまいりました。

世の中が新型コロナウイルス感染症により、未曾有の危機に直面しましたが、実行してまいった「スマート介護」が有事の際にとっても有力な方法であることがわかってきております。感染症の影響も相まって、省力化、省人化されたオペレーションの注目度が更に高まっています。

スマート介護士については、CBT化を導入し、集合試験では参加が難しかった方の参加が可能になり、幅広い方への参加を促すことができるようになり、受験者数も増加しました。

事業継続計画（BCP）については、新型コロナウイルス感染症予防を含めた内容を盛り込み、法人内での計画実行に向けて取り組んでまいりました。

介護品質向上においては、昨年度に引き続き独自で構築したサービス品質評価フレームワークの利用を進め、介護アウトカム（介護サービスの成果）を可視化し測定することで、定量的なデータに基づいた効果あるサービスの効率的な提供に努めました。

サービス提供(オペレーション)効率の向上においては、SCOP及び関連するアプリケーションの利用を進め、経営効率の向上や職員の負担軽減を図りました。また、国内最先端の福祉施設として、介護ロボット機器の活用による効率化に不可欠な「連続的かつ柔軟なオペレーション創造」にかかるノウハウを、福祉業界の発展のために広く提供することに努めました。

さらに、介護労働市場の人材不足の深刻化に対して、国籍や年齢を問わずに様々な人材の採用を進め、多様な個性が組織の成長を加速化させるダイバーシティ環境を構築し、より一層一人一人の職員が働きやすい組織とすることで、職員の長期定着化を図りました。

(1) ガバナンス体制

- ① 予実管理において各費目及びその内訳と、施設や部門とのリンケージを確立させ、責任所在を明確化することで経営意識の醸成を図りました。
- ② 収益管理において事業別に収益予実差異を細分化し、継続的に差異発生原因を把握できる実績管理体制を構築しました。

(2) 経営戦略

- ① 同一もしくは、近隣地域にて複数種類の事業を展開している強みを活かし、事業間シナジーを通じてお客様の状態やその変化に応じた包括的サービス提供体制を強化しました。具体的には、稼働率が法人内で比較的低稼働であった介護老人保健施設の事業を今まで以上に利用者から選ばれるよう稼働率の向上に務めました。
- ② 経営基盤強化を目的に、サービス品質管理プラットフォームの開発やオペレーション効率向上に必要な能力定義等を行いました。

(3) マーケティング戦略

- ① コロナ禍において外出等の機会が失われてしまったものの、他企業と連携し、室内でも楽しめるコンテンツの充実を図りました。
- ② お客様の嗜好に合わせた多様な経験の場を提供するために、積極的に地域資源を活用したサービス設計を図りました。
- ③ 地域福祉を担うべき存在である社会福祉法人としての役割に鑑み、地域との連携が分断されつつある状況においても、積極的に情報発信に努めました。
- ④ 事業展開地域のコミュニティ機能を維持・向上すべく、より親しみやすい空間づくりに取り組みました。

(4) 財務戦略

- ① 水道光熱費、消耗品、食材や飲料、各種業務委託契約に対する抜本的な見直しを行い、更なるコストカットを図りました。また、物価高騰に対する助成金などを積極的に活用していきました。
- ② 設備や車両等においてもリース転換を含めた、資産の流動化を検討し、運営コストの圧縮を図りました。

(5) オペレーション戦略

- ① 多くの最新の介護機器等を試験導入することで培ってきた経験を活かし、最新テクノロジーを活用した業務効率の高いオペレーションモデル構築を推進しました。
- ② バックオフィス部門においては、AI 導入等を検討しながら、アウトソーシング化を検討いたしました。
- ③ 各種業務工程に SCOP に関連した独自開発のアプリケーション等を導入することで、効率化を進めました。
- ④ 事業毎に異なる環境とその変化に柔軟に対応すべく、施設の特性を活かしたサービス提供体制を開発・再構築しました。

(6) 人事戦略

- ① 明確な評価基準を基にしたキャリアパスを引き続き活用し、職員の自発的な能力開発を促す職場作りに取り組みました。
- ② 価値観が多様化する中、また福祉人材の需給状況が悪化する中、多様な職員が活躍できる職場の創出を目的に、シニア世代や外国人従業員が働きやすい環境を整備いたしました。
- ③ 採用環境が悪化する中、従来の採用広告出稿や人材紹介等の施策にとどまらず、経営資源を集中的に投下し、積極的に新たな独自施策を企画立案、実施しました。

(7) リスクマネジメント対策

- ① 経済の不確実性が高まる環境下で安定的にサービス提供できるよう、物価上昇に耐えうる各種備品・消耗品の調達ルートの整備に取り組みました。
- ② 自然災害発生時等、いかなる状況においても安定的にサービスを提供できるよう、各種災害対策訓練を継続的に実施するとともに、基準期間二倍の運転資金の確保と飲食料備蓄や災害対策用品の管理を徹底いたしました。
- ③ 感染症やケガを含む介護事故の事例を個別的・統計的に分析し、施策立案、実施、評価のPDCAサイクルを回すことで予防能力を強化しました。
- ④ 新型コロナウイルス感染症に対しては、新型コロナウイルス感染症対応マニュアルの見直しを行いながら、施設内での感染の拡大予防に努めました。

(8) R&D 戦略

- ① 最先端介護施設としての使命を果たすべく、業務効率化を目的として、特別養護老人ホーム バタフライヒル細田と特別養護老人ホーム フロース東糞谷の指定ユニットにおいて、集中的に先進的な介護ロボット等を導入する「ハイブリッド特養プロジェクト」について、対象フロアを一層拡大いたしました。
- ② 「ハイブリッド特養プロジェクト」で優れた効果が認められた介護ロボットについて、他の事業所も含め、導入範囲を拡大しました。
- ③ 先端テクノロジーを駆使して高効率な介護サービスを提供するための施設オペレーションにかかる技術を形式知化した、介護資格「スマート介護士」を更に拡充いたしました。

(9) コミュニケーション戦略

- ① コロナ禍において、地域とのコミュニケーションについては限られてしまったものの、積極的な情報発信を実施いたしました。
- ② 新型コロナ感染症が5類に移行したことに伴い、施設内の面会もコロナ前のように対面での面会に切り替え、感染対応を実施しながら安全にご家族様との面会ができるように対応してきました。対面での面会を再開することで、お客様に笑顔も増えたように感じる1年でした。
- ③ 今年度も、事業展開地域以外での地域貢献活動を実施しました。

第二章 特別養護老人ホーム フロース東糀谷

I. 特別養護老人ホーム フロース東糀谷 (指定介護老人福祉施設)

1. フロース東糀谷としての取り組み

(1) 時を感じることでできる居場所作りとケアサービス

最期まで、その人らしく生きる人生を送っていただくため、ご本人様、ご家族様、職員が一丸となり、フロース東糀谷の介護指針に沿い「あきらめない介護」を実践し、その人らしい人生プランを実現できるサービス提供を目指しました。生活の中で当たり前に四季と1日の時を感じることでできる居場所作りとケアサービスの提供に努めております。

自立支援に向けては、独自のアウトカムスケールを活用し、定量的に評価できる仕組みで分析を行い、お客様の自立支援向上を目指しました。一人ひとりの「できること」に着目し、お客様の個性を考慮したケアサービスが提供できるように多職種と連携して活用を行っております。

WEB ツールについては、使用しながら他者との交流や外の環境に触れることができるように新たな方法を模索しながら実践に努めました。

コロナ禍により、対面でのご面会は制限しておりましたが、WEB 面会やリモートで参加できるイベント企画も行いながら、お客様とご家族様の日々の繋がりを作れるように新たな取り組みにも挑戦しました。

日常では、畑を活用して野菜や植物を育て、五感を使い四季を感じることでできる環境の提供、夢プランの実施も積極的に進め、お客様の満足度の向上に努めました。

お看取り介護では、お客様、ご家族様が望む最期を迎えられるように、個々に見合ったご提案やご要望を実現できるお看取り介護を多職種と連携し、実施しております。コロナ禍においても、ご家族様との最期の時を大切にし、支援に努めました。

(2) 安定した財務基盤の確立

質の高いサービスを継続提供し続けるために、各委員会を中心に、様々な取り組みを実践してまいりました。特に、お客様健康向上委員会を中心に、各お客様の疾病分析、個々の状態に合った疾病の発症予防の実践を行いました。

また、ICT を用いたケアにより、適切なケアの実施、病気の早期発見に努め、疾病や事故による入院予防に努めました。

さらに、新型コロナウイルス感染症防止に合わせ、オンライン診療を取り入れ、早期対応、外部受診の削減に努めました。年間を通し入院抑制に繋がる結果となりました。

(3) 介護 DX 化によるオペレーション変革

ハイブリッド特養プロジェクトとして、モデルフロア・ユニットを構築し、最先端技術の本格導入に向けた現場レベルでの運用を実施してまいりました。実証事業にも多く参画し、様々な最先端技術の導入を行い、さらに導入フロア、ユニットを広げ、施設全体での実用化を目指しました。

また、柔軟性と創造性を併せ持つ介護士育成のため、スマート介護士資格取得に取り組みました。資格保有率の向上と資格取得後のフォローアップ体制も整え、引き続き施設全体で業務効率化・お客様へのサービス品質向上に努めてまいります。

(4) 日本一働きがいのある施設像の構築

職員の主体的な施設運営参加を促し、あるべき施設像を追求いたしました。各種委員会に全職員が属し、現場リーダーを中心に運用いたしました。

個々のスキルや得意分野を活かせる場を作ることにより、やりがいや達成感を感じ、個々の成長と主体性を醸成しました。

主体的に提案された事象がオペレーションとして機能するようボトムアップを図りました。

個々の職員の自己実現に向けて、目標設定や評価の中で成長を実感できる体制を構築しました。

2. 施設行事

別紙1のとおり

3. 職員研修・会議

別紙2のとおり

Ⅱ. ショートステイ フロース東糀谷 (短期入所生活介護)

1. フロース東糀谷としての取り組み

(1) 時を感じることでできる居場所作りとケアサービス

在宅生活を継続できるように「できること」を日常に取り入れて、その人らしい生活が当たり前に行えるように、ご本人様、ご家族様、職員が一丸となりあきらめない介護の実践に努めました。

また、この場所が人生を楽しむため選択できる場所となるように皆様の居場所作りとケアサービスに努めております。

生活の中で四季と1日の時を感じていただける居場所づくりとケアサービスの提供に努めました。

(2) 継続した在宅生活を実現できるサービスの創出

施設サービスを利用することによって科学的根拠に基づいたレコメンドレポートを提供し、在宅生活を継続して営んでいただけるよう取り組みました。

睡眠状態の可視化、お客様の記録情報及び生体情報を基に、在宅生活に係る介入、助言ができるレコメンドレポートの作成、提供を進めることができました。それによりアセスメント力の強化、職員のケアの質の向上、ご家族様との関係の構築にも繋がっております。

(3) 個々に応じた宿泊プランとおもてなし

アセスメントシートを作成し、個別ケアの充実に努めました。より詳細な情報と個々のニーズを確認し、個々に見合ったプランの作成を目指しております。

また、個々の要望にお応えできるように「リクエストプラン」を導入しております。

コロナ禍によりできることは限られましたが、感染症対策を徹底しながら、お客様にお楽しみいただけるよう工夫し、満足度向上に努めました。

(4) 認知症予防、認知症進行防止のケアサービス

高齢者ケアメゾット「ユマニチュード」の学習機会を設け、チームで取り組んでおります。それぞれのお客様の認知症の症状について情報共有を行い、ケアの検討、統一を行いました。認知症ケアの課題解決も行えるように、更なる認知症ケアのスペシャリストの育成に努めます。

(5) 介護DX化によるオペレーション変革

将来の介護施設像の構築を進める「ハイブリッド特別養護老人ホームプロジェクト」において、テクノロジー技術を導入し、科学的介護による高品質なサービス提供の実現と、介護士の業務負担の軽減を行い、介護保険サービスに見合った人員配置実現のためのオペレーションの構築に取り組みました。

(6) 安定した財務基盤の確立

より多くのお客様にご利用いただくために、入所施設と連携を図り、空床利用も積極的に活用しました。

また、看護職員等の各専門職とも連携を図り、重度要介護者、医療依存度の高いお客様の受け入れや、居宅介護支援事業所とも連携し、緊急にご利用を希望する方も受け入れられる体制を整えました。

(7) 日本一働きがいのある施設像の構築

職員の主体的な施設運営を促し、あるべき施設像を追求しました。それぞれが役割を持ち、やりがいや達成感を感じ、主体性を醸成いたしました。

各ミーティングにおいて、それぞれが発言できる環境や学習の場を設け、それぞれのスキルアップと組織の成長を目指しております。

各職員においては、年間の目標設定を行い個々のスキルアップに努めました。目標の管理については、各リーダーがフォローアップを行い、個々のレベルに応じた育成に努めました。

(8) ご家族様と居宅介護支援事業所との連携

ご利用期間中のサービス提供状況や生活状態をご家族様、担当ケアマネージャーと共有しております。コロナ禍により、WEB ツールも用いながら、ご意向に沿った連携方法を提案し、スムーズな連携に努めました。

また、ケアの利用中の気づきや変化を共有することで、個々の適切なケアへの支援に繋がるよう努めました。施設での生活のみならず、在宅生活へのアプローチができるように、積極的な連携を図ってまいります。

(9) 地域共生社会

地域資源の活用、地域事業に積極的に参加し、地域共生社会を目指しています。コロナ禍においても、新しい地域連携を検討、提案し、当たり前前に社会参画できる体制と介護事業所として地域への役割を果たせるように努めました。

(10) 災害対策について

事業継続計画（BCP）を立案し、お客様、ご家族様、職員の安全を確保しながら法人の事業を適切に継続、運営しています。大規模災害が発生した際、人命の安全を第一に考え、社会的な供給責任を果たせるように努めました。

2. 施設行事

別紙1のとおり

3. 職員研修・会議

別紙2のとおり

Ⅲ. 老人デイサービスセンター フロース東糶谷 (地域密着型通所介護)

1. 令和5年度の取り組み

(1) 自立支援、重度化防止に努めます

LIFE をツールに管理栄養士と、お客様の栄養状態について共有し、適切な食事の形態や摂取方法、栄養状態の維持改善に努めることができました。

口腔状態や栄養状態の評価について、定期的にお客様、ご家族様、担当ケアマネージャーへ情報を共有し、介護サービス事業者全体で関わられるよう努めました。

(2) ご家族との関係づくりの強化

インスタントカメラを使用し、その場ですぐに写真をお渡しできるよう業務効率化を図りながら、不定期ではありましたが実施することができました。

また、法人公式インスタグラムにもデイサービスの様子を掲載させていただき、透明性のあるサービスのご案内に努めました。

(3) 能力に応ずる自立した活動の取り組み

菜園活動、ガーデニングを実施しました。

定期的に屋外に出て、外の季節を感じてもらいながら、適度な運動も行うことができました。

レクリエーションや食のイベントは、年間計画に基づき実施しております。コロナ禍でも安全に楽しく行える取組を計画することができ、心身機能の維持向上に努めることができました。

外出は感染対策上控えましたが、WEB ツール等を用いて幅広いレクリエーションの提供に努めました。

(4) 選択制の充実

アクティビティの充実を図り、選択性を取り入れることでお客様の多様化したニーズに応えることを目指しました。

定期的なミーティングを開催し、年間計画に基づいたレクリエーションの練度の向上に努め、選択的な活動については毎月選択食を開催しました。

運動は機能訓練指導員が中心となってプログラムを作成し、季節ごとのイベントに絡めた運動を計画し、季節感のある運動を実施することができました。

創作、調理レクリエーションも、別紙年間計画に基づき実施することができました。

(5) 在宅生活を支えるサービスの創出

看護師による口腔状態のアセスメント、管理栄養士による栄養アセスメントを実施し、低栄養予防に努めました。

定期的な食事提供が必要なお客様へ、事業所で調理したお弁当の提供を案内し、定期的に購入いただいております。

自宅および生活課題を抱えている方には、個別機能訓練の提案を行い、個別の訓練プログラムを立案、実施することができました。

【居宅支援事業所との連携】

居宅支援事業所へ毎月の活動報告を行うとともに、適宜必要なサービスの提案を行っております。

(6) 地域共生社会への取り組み

施設感染防止対策のため、直接顔を合わせての運営推進会議は実施せず、書面報告での実施とさせていただきます。

外部ボランティアの受け入れは、上記対策のため未実施となりました。

職場体験については感染状況が落ち着いていた時期に1件受け入れを行いました。

(7) サービスの質の向上

年間研修計画に基づき職員研修を実施しております。認知症研修の他、個別に認知症介護実践者研修に申し込みしましたが落選し受講はできませんでした。

また、第三者評価を実施し、アンケート調査の結果を受けサービス品質の向上に努めました。

(8) 効率的な運営

既存業務の効率化と改善について、適宜職員間で話し合う時間を設け、オペレーションの効率化に努めることができました。

実証実験の実施、メーカーや他事業所のノウハウを取り入れる視点で、実験への参加に努めました。

2. 施設行事

別紙1のとおり

3. 職員研修・会議

別紙2のとおり

IV. デイサービスセンター フロース東糀谷 (認知症対応型通所介護)

1. 令和5年度の取り組み

(1) 継続した在宅生活を実現できるサービスの創出

在宅生活を継続して営んでいただけるように、お客様、ご家族様に対し積極的な支援を行いました。要介護状態の予防、ADLの維持向上、自立支援、社会保障費の抑制に繋がる活動になるよう支援いたしました。

(2) 認知症ケアの取り組み

余暇活動に、菜園活動や創作等の体験型のアトラクト、生活リハビリを取り入れております。生活リハビリはお客様が普段自宅でも行なっている家事作業（洗濯物たたみ、洗濯物干し、テーブル拭き、食器拭き、掃き掃除など）を中心に行ない、在宅生活継続を意識した取り組みを行ないました。

各活動に関しても五感を刺激し、人間らしく生きる人生を諦めないという考え方のもと、認知症の根治、認知症による周辺症状の緩和を目指し、認知症ケアの確立を目指しました。

(3) 選択制の充実

各お客様に合わせたアクティビティの充実を図り、選択制を取り入れることでお客様の多様化したニーズに応えることを目指しました。

(4) 在宅生活を支えるサービスの創出

一人暮らしや高齢者世帯のため食事作りや買い物が困難であり、定期的な食事提供が必要なお客様へ、管理栄養士監修の栄養バランスのとれたお弁当の提供を行ないました。

また、LIFEを用いて管理栄養士とともに、お客様の口腔、栄養状態についてアセスメント、モニタリングを実施し、栄養状態の維持、改善に努めました。

管理栄養士による昼食時間帯のラウンドも実施し、都度お客様の食事の様子について情報の共有を図るよう努めました。

(5) お客様・ご家族様への支援

ご家族様との緊密な関係を築き、協働でお客様の認知症介護を目指しました。居宅訪問やアセスメントツールを活用し、生活機能維持を図りました。また、ご家族様の負担軽減や孤独感を解消できるよう努めました。

(6) 地域への取り組み

保育所との交流会を実施し、お客様が地域の方と交流する機会の確保に努めました。

また、依頼のあった企業からの共同実証に積極的に参加し、お客様の新たな取り組みに対して挑戦する機会の提供、福祉業界改革の手助けとなるように努めました。

(7) 効率的な運営

業務の効率化や改善について定例ミーティング等で話し合う機会を設け、オペレーションの効率化について職員の意識を高めることに努めました。

実証実験への参加、他事業所のノウハウも参考にしながら業務の見直しも行ないました。

2. 施設行事

別紙1のとおり

3. 職員研修・会議
別紙2のとおり

第三章 介護老人保健施設 アクア東糀谷

I. 介護老人保健施設 アクア東糀谷 (介護老人保健施設)

1. アクア東糀谷としての取り組み

(1) お客様のニーズに合わせた生活の構築

① 個々のお客様の目標に合わせたユニット配置の実現を目指します

介護老人保健施設を利用されるお客様の多様化するニーズに合わせ、そのニーズに沿ったユニット構成を行えるよう検討しました。在宅復帰を目指す方や自立度の高い方を同ユニットで受入れ、必要な支援や適切な環境を提供できるよう努めました。重介助が必要な方や認知症の方、医療ケアが必要な方の受け入れ体制を明確化し、幅広いお客様を受け入れる体制の確立を目指しました。

② ユニット内での活動を充実させ、お客様が快適に過ごせる環境作りを目指します

お客様の認知機能や身体機能に合ったレクリエーションなどを検討し、お客様の喜びや笑顔を引き出し、達成感や満足度向上に繋げられるよう努めました。また、タブレットを活用し、毎日ユニット内で体操や歌を歌う時間を設け、ユニット内での活動の習慣化を目指しました。

(2) 生活の質を高め、心に寄り添うケアを多職種協働で実践します

- ・お客様がその人らしく充実した生活を送るために、多職種がそれぞれの視点でアセスメントを行い、カンファレンスにて課題の抽出を行い、できる事を増やす支援を行いました。
- ・各職種の専門性を理解すると共に、チーム間のコミュニケーションを円滑に行い、チームケアでお客様の課題解決に努めました。

(3) リハビリテーションの充実

① 在宅復帰へのアプローチを図る

- ・在宅復帰を目指されているお客様に対し、入所前にご家族様から自宅環境やご希望を伺い、在宅で必要な動作の習得を目標とし支援しました。退所前には、職員がご自宅の環境を実際に確認させていただきました。手すりや福祉機器導入の検討や、動作確認を行い、お客様が自宅で安心して生活が送れるよう助言を行いました。
- ・在宅復帰後に買い物や調理が必要なお客様に対し、屋外歩行や買い物訓練、調理訓練を行い評価し、ご家族様や居宅ケアマネージャーへ情報共有を行いました。
- ・施設と在宅では生活環境が異なるということを前提に、お客様の生活における課題を洗い出し、改善できるよう各専門職が協力しながら支援を行いました。
- ・在宅復帰支援ミーティングを月1回開催し、在宅復帰を希望されている方だけでなく、機能的に在宅復帰が可能な方については、ご家族様へ現状の報告と合わせ、退所支援を行いました。

② 多職種連携による生活リハビリの充実を図る

- ・日々の生活の中にリハビリを取り入れ、継続した運動習慣の獲得を目指しましたが、一人ひとりのお客様のニーズに沿った支援を継続的に行うことができませんでした。
- ・食事、おやつ作りなどの調理レクリエーションを実施し、五感を刺激する取り組みを

行いました。また月毎のイベントに合わせた調理メニューを検討し、季節を感じるレクリエーションとなるよう努めました。

- ・言語聴覚士による嚥下機能の評価を行い、安全に食事ができるよう食形態の選定や、職員へ食事提供方法の指導を行いました。

③科学的根拠のあるリハビリテーションの実施

- ・科学的根拠のある計画書、実施報告書の作成を行い、お客様やご家族様にお伝えしていきました。またご家族様の面会時には直接リハビリの様子をご覧いただき、お客様の状況を直接把握していただき情報の共有を行いました。
- ・在宅復帰後に必要な能力が身に付くような内容を検討し、適宜他職種間で情報の発信、共有を行いました。
- ・機器の導入、活用を行い、データに基づいた根拠のあるリハビリテーションの実施に努めました。

(4) 質の高いサービス提供を目指した委員会の運用

質の高いサービスを提供するために、各委員会が目標を設定し、目的を明確にした委員会活動を行いました

①身体拘束適正化委員会

「身体拘束ゼロの継続と安全な生活環境の担保」

- ・身体拘束だけでなくそれになりうる対応がないよう、毎月委員会を開催し協議しました。
- ・認知症への理解を深める研修を実施し、認知症ケアの向上や不適切ケア防止に努めました。
- ・身体拘束による弊害を全職員が把握し、お客様の尊厳保持を守るよう努めました。

②感染症予防委員会

「感染症予防対策と感染症発生時の早期対応を徹底させる」

- ・年4回の研修を行い、高齢者施設で働く職員として感染症に対する理解を深めました。
- ・お客様、職員共に毎日検温を行い、朝礼時に体調の共有をし、感染症発生リスクをモニタリングしました。感染症発生リスクが高いと判断した場合は、すぐに検査を実施し、感染症発生時には迅速に感染症拡大防止の対応を行いました。

③褥瘡予防委員会

「褥瘡形成ゼロを目指す」

(介護)

- ・お客様を日々観察し、皮膚状態の変化、食事摂取量の変化などを確認の上、他職種と連携を取り、早期対応を行いました。
- ・お客様一人一人にあったケアを提供し、状態変化があった際は、都度見直しを行いました。

(看護)

- ・褥瘡の知識、技術を高め、褥瘡発生の予防に努めました。
- ・局所的な処置に留まらず、原因から対策まで褥瘡に対しての視野を広くもち、介護職にも共有、助言を行い褥瘡悪化防止に努めました。

(栄養)

- ・食事量や水分量、体重減少の有無をこまめに確認しました。
- ・栄養量の過不足を確認し、必要栄養量の確保に努めました。
- ・採血データを定期的にモニタリングしました。

- ・低栄養による褥瘡発生や治癒遅延とならないよう、食事摂取量などのデータを踏まえ栄養補助食品の検討を行い提供しました。

(リハビリ)

- ・適切なポジショニングによる除圧を行い、他職種とも連携を取り、褥瘡予防に努めました。
- ・お客様の身体機能を他職種に情報共有し、リスク管理を行いました。

④事故防止検討委員会

「介護事故ゼロを目指し、お客様へ安全な環境を提供していく」

- ・お客様一人一人に合った支援の仕方や介助方法を多職種で検討し、全職員が統一したケアを行い事故防止に努めました。
- ・デジタル機器を活用した安全な環境作りを目指しました。お客様の状態変化に応じて、デジタル機器や設定の見直しも迅速に行いました。

⑤機能向上委員会

「機能向上を図り、お客様のできる事や生きがいを増やす」

- ・生活の中にリハビリを取り入れ運動習慣の構築を目指しましたが、個々のお客様に合わせたメニューのもと実施する生活リハビリについては、構築には至りませんでした。しかし、毎日ユニット毎に体操や歌を歌う時間を設け、習慣化することでお客様の満足度や意欲向上に繋がられるよう実践しました。また他のお客様との交流を持ちながら社会参加に繋がっていけるよう努めました。

⑥スマート介護士委員会

「デジタル技術を活用し、お客様の生活の質の向上を目指す」

- ・デジタル機器の利用によるお客様の安全確保や生活リズムの把握を行うことはできましたが、知識の習得、デジタル技術を活用した計画の立案や、PDCAサイクルに基づいたお客様の生活の質の向上に繋げるまでには至りませんでした。

⑦環境整備委員会

「お客様が衛生的な環境で安心して生活できる場を提供する」

- ・生活環境を整備することで、お客様の事故防止に繋がられるよう努めました。
- ・トイレ、洗面台、浴室など汚れが目立つ場所の清潔を保ち、心地良く使用していただく環境作りに努めました。
- ・職員へ環境整備の必要性を意識づけ、習慣化を目指しました。

(5) 職員のスキルアップを行いサービスの質の向上を目指す

① 職員の役割を明確にすることで意欲向上を図る

- ・居室担当者は、各職種の視点からアセスメントを実施し、お客様のニーズを把握し目標設定を行い、目標達成のための計画を立案、実施することでサービスの質の向上を目指しました。
- ・職員一人ひとりが、委員会に所属し施設運営に参加しました。施設での課題を委員会内で議論することで、当事者意識をもって考え、行動できる職員育成を行いました。

② 研修を充実させ職員のスキルアップを行う

- ・職員の課題や今後必要な知識習得を目指し、各専門職が研修に参加しました。オンライン研修等、積極的に外部研修に参加し、幅広い知識の習得を図りました。
- ・各委員会を中心とした内部研修を定期的に行い、座学研修だけでなく実践を交えた研

修内容も取り込み、確実な知識と技術の習得を行いました。
内部研修で委員会の担当職員が講師を行うことにより、講師を担当する職員の理解が深まることを期待すると共に、施設内の課題に目を向ける機会としました。

③ 認知症ケアの確立

- ・ 認知症のお客様の症状が落ち着き、安定した生活の場が確保できるように介護職を中心に日々のケア内容の見直しを行いました。
- ・ 新入職員や未資格の介護職員は、東京都認知症基礎研修に参加し、認知症について理解を深めました。

(6) 稼働率向上に向けて

- ・ 安定した稼働率の確保のため、支援相談員以外の職員も、入所の申込案内や見学対応が行えるように情報共有を図り対応しました。
- ・ 新規顧客獲得に向けて、大田区内の事業所や病院に営業を行いました。
- ・ 近隣の病院に対しては、ベッドの空き情報などを積極的に発信しました。
- ・ お客様の健康管理に関して、各専門職が連携を図り早期異変の発見、早期対応により入院による退所者を最小限に留められるよう努めました。
- ・ 新規顧客をより多く受け入れるため、在籍期間が長いお客様に対しては退所支援を行っていくことでベッド回転率を上げていきました。

2. 施設行事

別紙1のとおり

3. 職員研修・会議

別紙2のとおり

Ⅱ. 介護老人保健施設 アクア東糀谷 (短期入所療養介護)

1. アクア東糀谷としての取り組み

(1) お客様のできる能力の向上を目指す

- ・お客様の「できる能力、できない能力」を、理学療法士等が FIM を参考にした独自の評価表を用いて評価しました。また、ご自宅での生活状況を把握するため、フェイスシートを作成していきました。
- ・入所時に理学療法士等が評価し課題とした、能力の向上に特化したリハビリテーションを実施しました。

(2) 在宅でのリハビリ方法の提案

- ・在宅生活に戻った後でも継続して「できる能力」を維持できるように、在宅用のリハビリプログラム（在宅版）を作成し、必要に応じて退所時にご家族様へ提案しました。
- ・サービス担当者会議への参加や担当ケアマネージャーとの情報共有など、在宅サービスの職員との連携不足については課題が残りました。

2. 施設行事

別紙 1 のとおり

3. 職員研修・会議

別紙 2 のとおり

Ⅲ. 介護老人保健施設 アクア東糀谷 (通所リハビリテーション)

1. 通所リハビリテーションアクア東糀谷としての取り組み

(1) お客様の身体機能の向上により、できる能力の向上を目指す

住み慣れた在宅での生活が継続できるように、お客様の身体能力、生活環境に合わせたリハビリプログラムを提供し、ご自身でできる動作が一つでも増えることを目指します。

- ・お客様の身体状況を日々のリハビリ内で確認し、生活環境については必要に応じて訪問し確認しました。
- ・サービス担当者会議にリハビリ職員や介護職員が参加し、他のサービス提供事業者とお客様の状況を共有しました。
- ・在宅介護での課題がある際は、課題に対しての対応策などをお客様、ご家族様に提案しました。連絡帳も活用し、送迎時には必要に応じて共有や情報交換を行い、課題解決に向け支援しました。

(2) 独自のリハビリテーション（アクアフィット）メソッドの確立

- ・科学的介護情報システム（LIFE）の項目に基づき評価を行い、科学的根拠に基づいたリハビリテーション計画書を作成し実施しました。3 か月毎に再評価を実施し、計画の見直しを行いました。
- ・個別練習に加え、マシンを使用した訓練も取り入れ身体機能の向上に繋げました。数値化されたデータをもとに、リハビリ職員とお客様が共に現在の能力を把握し、都度負荷量の調整やメニューの見直しを行いました。また新しいリハビリ機器も導入し、一人ひとりのお客様の身体機能に合わせたマシントレーニングメニューの拡大も行いました。
- ・マシントレーニングや自転車エルゴメーター等のリハビリ機器を用いた自主練習プログラムを作成し、効果的な身体機能の向上を図りました。自主練習プログラムはお客様個々の状態に合わせ目標設定を行い、目標の達成に向けてモチベーションが継続するよう支援しました。
- ・パソコンや ipad 等の電子機器を使用した訓練を行い認知機能面の維持、向上や社会復帰の支援を行いました。
- ・サービス利用時のリハビリ実施状況と成果を、月に1回ご家族様に報告しました。お客様とご家族様のニーズを把握し、それを達成できるリハビリテーションを自宅でも継続して取り組めるように、自主練習の提案と指導を行いました。自主練習内容はご家族様にも共有し、ご自宅でのリハビリのサポートに活用していただけるよう助言を行いました。

2. 施設行事

別紙1のとおり

3. 職員研修・会議

別紙2のとおり

第 四 章 障害者支援施設 アミークス東糀谷

I. 障害者支援施設 アミークス東糀谷 (施設入所支援・生活介護)

1. 運営

お客様のニーズを把握し、施設個別支援計画に基づいたうえで、お客様の立場にたった支援を行ないました。お客様が自分らしい生活、希望される生活を、お客様の意思及び人権を尊重し、サービスの質の向上に努めました。

お客様に寄り添ったより良いサービスの提供に向け、諦めない介護を実践しました。

○サービス

(1) 最先端技術の導入

- ・記録システムや職員連携を強化し、業務効率化を図り、直接処遇の時間を増加しました。
 - ・HitomeQ ケアサポートの活用、眠りスキャンの全床導入を行ないました。
 - ・移乗用リフトを活用して、ノーリフティングケアを実践し、お客様の安全に配慮するとともに職員の負担軽減を行いました。
- 今後もお客様の快適な生活環境、職員の職場環境の改善に努めます。

(2) 生活の充実

- ・日中活動を年間通して行いました。
 - ・季節に合わせて、行事イベントを行うことでお客様に季節を感じていただけました。
 - ・お客様個々の支援計画に基づき、ニーズに即した支援を提供し、お客様のご意見、ご要望については、職員ミーティングを開催し、随時検討を行い、定期的な見直しを行いました。
 - ・昨年 5 月の新型コロナウイルス感染症の 5 類への変更後は、面会、外出および外泊についても制限を設けずに実施しました。
- 今後も感染症の発生等に留意しつつ、QOL の向上を目指します。

(3) 食事の充実

- ・年間を通して、旬の食材を使用した季節を感じる食事提供に取り組みました。
- ・調理アトラクトをユニット毎に行い、普段にはない食事、おやつを提供することができました。

(4) 権利擁護の徹底

- ・権利擁護委員会を隔月 1 回開催し、継続的な虐待防止、身体拘束廃止、苦情解決等のお客様の権利擁護を中心とした「障害者の身体拘束防止」、「障害者の虐待防止」に取り組むことができました。
- ・身体拘束ゼロに向けた取り組みとして、勉強会を実施し、身体拘束に対する知識向上に努めることができました。
- ・虐待防止への取り組みとしては、年 2 回虐待防止自己点検シートを活用することにより、虐待防止について職員の意識を高めることができました。

(5) 感染症対策・予防の徹底

- ・感染症委員会を中心に予防対策が浸透され、また感染症疑いに対する検査を徹底したことにより、感染症自体の拡大を抑制できました。
- ・感染症予防に関する研修を実施し、職員個々の意識の向上に取り組みました。

(6) 社会性の確保

- ・新型コロナウイルス感染症の 5 類への変更後に、近隣のイベントも再開され、地域との交流の機会を再開することができました。

2. 組織管理

(1) 従業員の構成、職務

- ・職員体制、またその職務についても年間を通して遵守しました。

(2) 研修等

- ・オンライン研修の導入により、様々な障害特性について学ぶ機会を、職員に提供しました。また年間計画に沿って、研修を進めることができました。
- ・職員との面談を定期的に行ない、職員個々が自身の感じたことを提案できるコミュニケーションの機会を設けることができました。
- ・職員同士で意見交換ができる会議を開催しました。
- ・意見や提案を施設運営に反映するように取り組み、職員が能動的にサービス品質の向上に寄与するよう取り組みました。

3. 安全管理

- ・事故防止委員会としてお客様の支援方法の見直しを行ったことと、HitomeQ ケアサポートを活用することで、事故発生リスク軽減を行いました。また移乗用リフトを活用し、お客様の安全を優先したオペレーションに変更しました。
- ・事故発生後には、リスクマネジメント委員会を中心としたカンファレンスを実施し、原因の究明や再発防止策を検討しました。

4. 防火防災管理

- ・建物の防火防災計画に則り、お客様を交えた防火防災訓練を行い、お客様、職員ともに防火防災への意識が高まる取り組みを行いました。

5. 施設行事

別紙 1 のとおり

6. 職員研修・会議

別紙 2 のとおり

Ⅱ. 障害者支援施設 アミークス東糞谷 (短期入所)

1. 運営

短期間の入所を必要とするお客様に対し、ご家族様、関係機関との連携を図り、できる限り在宅に近い環境の中で、支援を行いました。また、地域での生活を継続できるよう相談及び助言などの支援を行いました。

○地域共生社会の実現

- ・地域での生活を継続できるよう、お客様、ご家族様から求められたサービスの提供を行いました。その際には、各管轄行政、各事業者と連携し、必要な情報の共有を行いました。
- ・新型コロナウイルス感染症の 5 類への変更後も感染症対策を徹底したことで、安心してご利用いただける環境を提供できました。

○サービス

(1) 最先端技術の導入

- ・記録システムや職員連携を強化し、業務効率化を図り、直接処遇の時間を増加しました。
- ・HitomeQ ケアサポートの活用、眠りスキヤンの全床導入を行いました。
- ・移乗用リフトを活用して、ノーリフティングケアを実践し、お客様の安全に配慮するとともに職員の負担軽減を行いました。
今後もおお客様の快適な生活環境、職員の職場環境の改善に努めます。

(2) 生活の充実

- ・日中活動を年間通して行い、短期入所のお客様にも参加いただきました。
- ・季節に合わせて、行事イベントを行うことでお客様に季節を感じていただけました。
- ・昨年 5 月の新型コロナウイルス感染症の 5 類への変更後は、面会や外出についても制限を設けずに実施しました。

(3) 食事の充実

- ・年間を通して、旬の食材を使用した季節を感じる食事提供に取り組みました。
- ・調理アトラクトをユニット毎に行い、普段にはない食事、おやつを提供することができました。

(4) 権利擁護の徹底

- ・権利擁護委員会を隔月 1 回開催し、継続的な虐待防止、身体拘束廃止、苦情解決等のお客様の権利擁護を中心とした「障害者の身体拘束防止」、「障害者の虐待防止」に取り組むことができました。
- ・身体拘束ゼロに向けた取り組みとして、勉強会を実施し、身体拘束に対する知識向上に努めることができました。
- ・虐待防止への取り組みとしては、年 2 回虐待防止自己点検シートを活用することにより、虐待防止について職員の意識を高めることができました。

(5) 感染症対策・予防の徹底

- ・感染症委員会を中心に予防対策が浸透され、また感染症疑いに対する検査を徹底したことにより、感染症自体の拡大を抑制できました。
- ・感染症予防に関する研修を実施し、職員個々の意識の向上に取り組みました。

(6) 社会性の確保

- ・新型コロナウイルス感染症の 5 類への変更後に、近隣のイベントも再開され、地域との交流の機会を再開することができました。

2. 組織管理

(1) 従業員の構成、職務

- ・職員体制、またその職務についても年間を通して遵守しました。

(2) 研修等

- ・オンライン研修の導入により、様々な障害特性について学ぶ機会を、職員に提供しました。また年間計画に沿って、研修を進めることができました。
- ・職員との面談を定期的に行い、職員個々が自身の感じたことを提案できるコミュニケーションの機会を設けることができました。
- ・職員同士で意見交換ができる会議を開催しました。
- ・意見や提案を施設運営に反映するように取り組み、職員が能動的にサービス品質の向上に寄与するよう取り組みました。

3. 安全管理

- ・事故防止委員会としてお客様の支援方法の見直しを行ったことと、HitomeQ ケアサポートを活用することで、事故発生リスク軽減を行いました。また移乗用リフトを活用し、お客様の安全を優先したオペレーションに変更しました。
- ・事故発生後には、リスクマネジメント委員会を中心としたカンファレンスを実施し、原因の究明や再発防止策を検討しました。

4. 防火防災管理

- ・建物の防火防災計画に則り、お客様を交えた防火防災訓練を行い、お客様、職員ともに防火防災への意識が高まる取り組みを行いました。

5. 施設行事

別紙 1 のとおり

6. 職員研修・会議

別紙 2 のとおり

Ⅲ. 障害者支援施設 アミークス東糀谷 (生活介護・通所)

1. 運営

お客様のニーズを把握し、施設個別支援計画に基づいたうえで、お客様の立場にたった支援を行いました。在宅での生活、日々の生活に活かせるような、生活の支援や日中活動リハビリテーションを行いました。支援の内容については、ご家族様や行政担当者と連携し、ご家族様の介護負担が軽減できるように努めました。

また、地域での生活を継続できるよう相談及び助言などの支援を行いました。

○地域共生社会の実現

○地域共生社会の実現

- ・地域での生活を継続できるよう、お客様、ご家族様から求められたサービスの提供を行いました。その際には、各管轄行政、各事業者と連携し、必要な情報の共有を行いました。
- ・新型コロナウイルス感染症の 5 類への変更後も感染症対策を徹底したことで、安心してご利用いただける環境を提供できました。

○サービス

(1) 最先端技術の導入

- ・記録システムや職員連携を強化し、業務効率化を図り、直接処遇の時間の増加することができました。
- ・移乗用リフトを活用して、ノーリフティングケアを実践し、お客様の安全に配慮するとともに職員の負担軽減を行いました。
今後もお客様の快適な生活環境、職員の職場環境の改善に努めます。

(2) 快適な入浴

- ・お客様の身体状況に合わせて安全で快適な入浴を提供しました。
- ・音楽や入浴剤を活用して、お客様がリラックスした状態で入浴できる環境づくりを行いました。

(3) 生活の充実

- ・日中活動を年間通して行いました。
- ・季節に合わせて、行事イベントを行うことでお客様に季節を感じていただけました。
- ・区主催の作品展覧会に合わせて、作品作りに励み、発表することができました。

(4) 食事の充実

- ・年間を通して、旬の食材を使用した季節を感じる食事提供に取り組みました。
- ・調理アトラクトをユニット毎に行ない、普段にはない食事、おやつを提供することができました。

(5) 権利擁護の徹底

- ・権利擁護委員会を隔月 1 回開催し、継続的な虐待防止、身体拘束廃止、苦情解決等のお客様の権利擁護を中心とした「障害者の身体拘束防止」、「障害者の虐待防止」に取り組むことができました。
- ・身体拘束ゼロに向けた取り組みとして、勉強会を実施し、身体拘束に対する知識向上に努めることができました。
- ・虐待防止への取り組みとしては、年 2 回虐待防止自己点検シートを活用することによ

り、虐待防止について職員の意識を高めることができました。

(6) 感染症対策・予防の徹底

- ・感染症委員会を中心に予防対策が浸透され、また感染症疑いに対する検査を徹底したことにより、感染症自体の拡大を抑制できました。
- ・感染症予防に関する研修を実施し、職員個々の意識の向上に取り組みました。

(7) 社会性の確保

- ・新型コロナウイルス感染症の5類への変更後に、近隣のイベントも再開され、地域との交流の機会を再開することができました。

2. 組織管理

(1) 従業者の構成、職務

- ・職員体制、またその職務についても年間を通して遵守しました。

(2) 研修等

- ・オンライン研修の導入により、様々な障害特性について学ぶ機会を、職員に提供しました。また年間計画に沿って、研修を進めることができました。
- ・職員との面談を定期的に行い、職員個々が自身の感じたことを提案できるコミュニケーションの機会を設けることができました。
- ・職員同士でも意見交換ができる会議を開催しました。
- ・意見や提案を施設運営に反映するように取り組み、職員が能動的にサービス品質の向上に寄与するよう取り組みました。

3. 安全管理

- ・事故防止委員会としてお客様の支援方法の見直しを行ったことと、HitomeQ ケアサポートを活用することで、事故発生リスクの軽減を行いました。また移乗用リフトを活用し、お客様の安全を優先したオペレーションに変更しました。
- ・事故発生後には、リスクマネジメント委員会を中心としたカンファレンスを実施し、原因の究明や再発防止策を検討しました。

4. 防火防災管理

- ・建物の防火防災計画に則り、お客様を交えた防火防災訓練を行ない、お客様、職員ともに防火防災への意識が高まる取り組みを行いました。

5. 施設行事

別紙1のとおり

6. 職員研修・会議

別紙2のとおり

第五章 特別養護老人ホーム バタフライヒル大森南

I. 特別養護老人ホーム バタフライヒル大森南 (指定介護老人福祉施設)

1. バタフライヒル大森南としての取り組み

(1) 業界の行く末を担う次世代人材の育成と定着

外部環境の変化に適応するための視点や考え方が身に付くよう、様々な面からアプローチをするように努めました。

リーダー層を中心に業界の将来を見据えて変化の方向性について共有する場を持つことで、理解の促進に努めました。特に委員会運営について権限移譲をさらに推進し、運営や取り組みについて創造的なものになるよう助言しました。

各職員の目標立案とその進捗の後押しをするための面談を実施しました。目標に対する根拠と行動に対する成果に着目し、各職員の育成における課題を明確化しました。

資格取得については、施設全体で介護福祉士 3 名の合格となっています。今後はその他の多種多様な資格取得の促進に努めていきます。

リーダー職員のマネジメントスキルの向上のため、管理者とリーダーの会議を定期的で開催しました。予定していた毎月の開催には至っていないため、状況に応じた開催頻度や会議内容の見直しを図ってまいります。

振り返り OJT については、複数回実施ができたものの指導者のリソース不足のため、事前に計画していた頻度に達していないため、次期についてはリソース確保をしたうえで実行してまいります。

職場環境の醸成については、有給取得率の向上や懇親会を複数回実施するなどの取り組みを進めました。

外国人職員との共生についても、全職員の理解を促進するため、外国人材に特化した研修を開催するなど工夫して取り組みました。

委員会については、主体性をもち改善に取り組めるよう、管理者がアドバイザーとして助言やフォローを行う体制を構築し、委員会運営において改善を図ることができました。改善は見られたものの求める委員会運営については至っておらず課題もあるため、次期の課題として検討を進めてまいります。

(2) 介護サービスの充実

看取り介護については年度内で 10 件の実績がありました。それぞれの看取り介護について振り返る場を設け、今後の看取り介護の質の向上に向けて検討を進めました。

介護老人福祉施設としてサービスの質の向上を図るため、ユニットリーダー研修に新たに 1 名が参加しています。

また、サービスにおける様々な課題は、サービス品質向上委員会を立ち上げ、その中で検討した内容を取り組みに反映しました。

また、地域とのつながりにおいては、感染症による規制が緩和された中で、夏祭りを実施し、地域やご家族様を招待しました。地域行事におきましても、可能な限り参加することができました。次期においても地域との繋がりを意識し、積極的に取り組んでまいります。

(3) 介護現場の生産性及びサービスの向上

介護現場の生産性の向上のため、介護ロボット導入推進検討委員会において、機器の導入や運用検討などに取り組みました。年度内に複数の機器を導入し、生産性の向上を目指しました。またスマート介護士の資格取得率も目標値を超えて取得者が増加してい

ます。

一方、課題として、成果を最大限出すための活用や、運用にまで至っていないという点が挙げられます。

次期については、生産性の向上及びサービスの質の向上に対する成果を出していくため、生産性向上委員会を立ち上げ、導入した機器などを最大限活用したうえで、取り組みにおける成果を検証していけるよう体制の再編成を行います。その成果の検証の中で、ご利用者様へのサービスの質の向上に対する成果も併せて追求するように取り組んでまいります。

2. 施設行事

別紙1のとおり

3. 職員研修・会議

別紙2のとおり

4. 予算に関する取り組み

介護保険収入について、年間予算稼働の97%には届かず94.8%での着地となりました。

主な要因として待機者の減少に伴う空床の増加、入院者及び入院日数の増加が挙げられます。待機者確保に向けて計画的かつシームレスな入所調整を図ることができる体制を再構築し、利用希望者に対して社会資源の有効活用につながるよう努めてまいります。

また、入院については前期と比較し約1.8倍の増加となっています。介護サービスに起因しない入院も多くあるものの、誤嚥性肺炎及び尿路感染などの疾病、骨折など事故に伴う入院については、各委員会で細やかな入院抑制施策を検討し実行いたします。

支出の大部分を占める人件費については人件費率55%以内で着地をしており、次期も介護現場の生産性の向上と併せて費用の抑制に努めてまいります。

また、物価高騰が継続する中、水道光熱費については削減目標値を大幅に超えた削減につなげることができているため、次期も継続して健全な運営に努めてまいります。

II. ショートステイ バタフライ ヒル大森南 (短期入所生活介護)

1. ショートステイ バタフライヒル大森南としての取り組み

(1) 業界の行く末を担う次世代人材の育成と定着

外部環境の変化に適応するための視点や考え方が身に付くよう、様々な面からアプローチをするように努めました。

リーダー層を中心に業界の将来を見据えて変化の方向性について共有する場を持つことで、理解の促進に努めました。特に委員会運営について権限移譲をさらに推進し、運営や取り組みについて創造的なものになるよう助言しました。

各職員の目標立案とその進捗の後押しをするための面談を実施しました。目標に対する根拠と行動に対する成果に着目し、各職員の育成における課題を明確化しました。

資格取得については、施設全体で介護福祉士 3 名の合格となっています。今後はその他の多種多様な資格取得の促進に努めていきます。

リーダー職員のマネジメントスキルの向上のため、管理者とリーダーの会議を定期的に関催をしました。予定していた毎月の開催には至っていないため、状況に応じた開催頻度や会議内容の見直しを図ってまいります。

振り返り OJT については、複数回実施ができたものの指導者のリソース不足のため、事前に計画していた頻度に達していないため、次期についてはリソース確保をしたうえで実行してまいります。

職場環境の醸成については、有給取得率の向上や懇親会を複数回実施するなどの取り組みを進めました。

外国人職員との共生についても全職員の理解を促進するため、外国人材に特化した研修を開催するなど工夫して取り組みました。

委員会については、主体性をもち改善に取り組めるよう、管理者がアドバイザーとして助言やフォローを行う体制を構築し、委員会運営において改善を図ることができました。改善は見られたものの求める委員会運営については至っておらず課題もあるため、次期の課題として検討を進めてまいります。

(2) 在宅生活へのアプローチ

ご利用を通じて、在宅生活と介護サービス事業所での生活が豊かになるよう可能な限り、居宅介護支援事業所の介護支援専門員やご家族様との連携強化に努めました。施設サービス計画書及び利用報告書、並びに退所時のご家族様への状況報告を通じて、施設利用と在宅生活に繋がりがもてるよう取り組みました。

また、在宅高齢者の緊急的なニーズに応えていくため、緊急利用や急な申込みに対しても可能な限り調整を進めることで、施設としての社会的責任を果たせるよう取り組みました。

次期についても、それらの取り組みを一層強化し、在宅での生活が施設利用を通じより充実したものになるよう利用中のサービスの在り方について、検討や改善を進めてまいります。

(3) 介護現場の生産性及びサービスの質の向上

介護現場の生産性の向上のため、介護ロボット導入推進検討委員会において、機器の導入や運用検討などに取り組みました。年度内に複数の機器を導入し生産性の向上を目指しました。またスマート介護士の資格取得率も目標値を超えて取得者が増加しています。

一方、課題として、成果を最大限出すための活用や、運用にまで至っていないという点が挙げられます。

次期については、生産性の向上及びサービスの質の向上に対する成果を出していくため、生産性向上委員会を立ち上げ、導入した機器などを最大限活用したうえで、取り組みにおける成果を検証していけるよう体制の再編成を行います。その成果の検証の中で、ご利用者様へのサービスの質の向上に対する成果も併せて追求するように取り組んでまいります。

2. 施設行事

別紙1のとおり

3. 職員研修・会議

別紙2のとおり

4. 予算に関する取り組み

予算の根拠になる稼働については、年間予算稼働を123%としておりましたが132.9%で着地しています。数字の根拠としては、入所の空床が多く、空床利用を積極的に利用できたこと、緊急利用や急な申込みに対する調整を可能な限り行ったことが挙げられます。

次期以降も急なニーズへの対応や調整はもちろんのこと、サービスの面で、利用を希望される方にご選択いただけるよう、サービスの質の向上に努めてまいります。

物価高騰が継続する中、水道光熱費については削減目標値を大幅に超えた削減につなげることができているため、次期も継続して健全な運営に努めてまいります。

短期入所については今期の結果を踏まえて、次期の予算稼働を125%に引き上げ、取り組みを継続してまいります。

第 六 章 特別養護老人ホーム バタフライヒル細田

I. 特別養護老人ホーム バタフライヒル細田 (指定介護老人福祉施設)

1. バタフライヒル細田としての取り組み

(1) お客様一人ひとりのニーズに合わせた個別ケアの提供をします

お客様一人ひとりに居室担当者を配置し、各専門職と共にサービス担当者会議を実施しました。サービス担当者会議では、お客様の課題を共通理解し、その方の生活機能向上に対する目標や支援方針を協議しました。居室担当者がサービス担当者会議に参加することで、お客様一人ひとりのことをより深く知ることができ、その方のニーズや目標に合わせたケアを検討することができました。会議で決定したケアが適切なものであったか、お客様やご家族様が満足されているかについて、こまめに情報収集や観察を行いました。

各フロアにテクノロジー機器を導入し、科学的根拠を用いたケアの検討を行いました。お客様に安心、安全な生活を送っていただけるよう職員同士で定期的に情報共有を行いました。

毎月ユニット MTG を行い、お客様のケアの見直しを行いました。その方が何を望んでいるのか、どのようにサポートすべきかを検討し、統一したケアを行うことができました。

(2) 余暇活動の充実を図ります

自立支援・機能訓練委員会を中心に、お客様の機能訓練を目的とした毎月のレクを企画し、お客様に楽しんでいただくことができました。調理レクでは、季節の食材を使用したおやつ作りやお客様のリクエストから調理するものを検討しました。手作りの食事は普段とは違った美味しさがあると、皆様に楽しんでいただくことができました。

地域の盆踊りへ参加し、近所の神社や公園へ散歩に行くなど、外出の機会も多く取り入れ、日々の生活の楽しみを提供することができました。

(3) 職員の育成を強化して質の高いサービス提供を目指します

職員一人ひとりのスキルアップを目指すため、内部研修の開催や外部研修への参加を行いました。

内部研修では、各委員会が主体となり、事前に課題を取り上げ、職員へ向けて研修を行いました。課題達成のために必要な知識を得る目的で、各自が外部の研修に参加したり情報収集を行ったうえで、委員会ミーティングで内容を考え、職員間での理解を深めました。

外部研修では、職員個々のニーズに合わせた研修を案内できるよう、積極的に情報提供を行いました。また、職員のレベルアップを目的として外部研修を計画し、参加を促しました。

新任職員に対しては、OJT 研修マニュアルに沿って職員一人ひとりのレベルに合わせた研修を行い、担当者と共に評価、実施を行いました。

中途職員に対しては、介護基礎研修として、知識や技術を再認識する場を設けました。

(4) 感染症対策・予防の徹底をします

感染症委員会は毎月開催し、感染症委員会が中心となり、感染予防に努めました。
新型コロナウイルスの蔓延に備え、職員や来設されたお客様へのマスク着用の徹底、職員の毎週1回のPCR検査、2時間おきの換気、テーブル等の消毒も行いました。
食中毒の流行時期には、手洗い研修として正しい手洗いの方法を職員へ周知し、インフルエンザやノロウイルス等の感染症の流行時期には、感染症の基礎知識や予防策、手洗い方法についての研修を行いました。
出勤時には職員一人ひとりが検温、手洗い、うがい、マスク着用を徹底しました。また、個々の体調を管理するよう促しました。

(5) 施設内で委員会を設けケアの向上を図ります

各委員会で目標を定め、同じ目標に向けて取り組める環境作りを目指しました。月に1度のMTGで課題を話し合い、それを解決するために施設全体で取り組んでまいりました。

2. 施設行事

別紙1のとおり

3. 職員研修・会議

別紙2のとおり

Ⅱ. ショートステイ バタフライ ヒル細田 (短期入所生活介護)

1. バタフライ ヒル細田としての取り組み

(1) 在宅ケアにフィードバックできるようなケアを確立します

初回のご自宅訪問にて、お客様の ADL はもちろんのこと、生活歴や趣味等も確認させていただき、短期入所生活介護計画書を作成いたしました。また、初回に限らず 2 回目以降のご利用時、ご家族様やお客様のニーズをお聞きし、ニーズにお応えできる計画を立案いたしました。計画に沿った退所報告書を、ご家族様や居宅のケアマネージャーへお渡しし、施設でのご様子はもちろんのこと、介助方法や介助を受けている際の様子などを記載し、実際に対応している職員からの意見やアドバイスなどの情報を提供するようにいたしました。ご家庭で介護をされている介護者の方へ、スムーズに情報提供できるよう心掛けております。

担当者会議にも参加をすることで、ご利用時の様子などを各サービス担当者へ共有をし、在宅ケアの統一を図りました。

ベッド上での動き、呼吸数、心拍などから睡眠状態を測定する機械を導入することで、利用中の睡眠状況や入眠時間、起床時間の確認を行い、個々に合ったタイミングで、排せつや体位変換等のケアを実施しました。

睡眠状態を測定する以外にもテクノロジーを活用し科学的にアセスメント、モニタリングを行い、ご家族様や担当ケアマネージャーへフィードバックを行いました。

(2) 利用期間中は役割をもった生活を提供します

在宅生活の延長線上として、自宅やデイサービスなどと同じように、役割のある生活が送れるように支援いたします

新規のお客様に対しては、初回の自宅訪問の際に生活歴やご趣味、熱中されていた事、お好きな事等を細部まで聞き取り調査を行い、リピーターのお客様に対しては、初回聞き取りからニーズに変化は無いかの確認を行いました。ニーズを実現できるようにアセスメントへ反映し、職員、ご家族様と共有いたしました。また、居宅ケアマネージャーからいただいたケアプランを現場へ共有し、自宅での生活を共有いたしました。

お客様のニーズに合わせた活動と余暇活動を提供できるようにレクスペースを設け、安全に体操やレクリエーション、カラオケを行えるように設備いたしました。機能訓練指導員主導のもと、体操の取り組みも行いました。その他に、調理レクや季節にあった作品作りを通して、お客様同士の交流を持っていただきお楽しみいただきました。

(3) 職員の育成を強化して質の高いサービス提供を目指します

質の高いサービス提供を行うことができるように、職員の成長と組織の発展の双方を目指す職場研修を実施します

職場研修を行うことで、職員がやりがいを感じると同時に、キャリアアップ促進を目指します

職員一人ひとりのスキルアップを目指すため、内部研修の開催や外部研修への参加を行いました。

内部研修では、各委員会が主体となり、事前に課題を取り上げ、職員へ向けて研修を行いました。課題達成のために必要な知識を得る目的で、各自が外部の研修に参加したり情報収集を行い、委員会ミーティングで内容を考え、職員間での理解を深めました。

外部研修では、職員個々のニーズに合わせた研修を案内できるよう、積極的に情報提

供を行いました。また、職員のレベルアップを目的として外部研修を計画し、参加を促しました。

新任職員に対しては、OJT 研修マニュアルに沿って職員一人ひとりのレベルに合わせた研修を行い、担当者と共に評価、実施を行いました。

中途職員に対しては、介護基礎研修として、知識や技術を再認識する場を設けました。

ショートステイのお客様が重度化傾向にあるため、施設看護師指導のもと、医療面への学びを深めることができるよう、随時勉強会、個人の知識習得に努めました。

(4) 感染症対策・予防の徹底をします

感染症に対する対策の基本である、①感染源の排除②感染経路の遮断③宿主（人間）の抵抗力の向上、これらを念頭におき感染症対策を講じます

感染症委員会は毎月開催し、感染症委員会が中心となり、感染予防に努めました。

新型コロナウイルスの蔓延に備え、職員や来設されたお客様へのマスク着用の徹底、職員の毎週1回のPCR検査、2時間おきの換気、テーブル等の消毒も行いました。食事前にはアルコール消毒にて手指消毒を行いました。

食中毒の流行時期には手洗い研修として正しい手洗いの方法を職員へ周知し、インフルエンザやノロウイルス等の感染症の流行時期には感染症の基礎知識や予防策、手洗い方法についての研修を行いました。

出勤時には職員一人ひとりが検温、手洗い、うがい、マスク着用を徹底しました。また、個々の体調を管理するよう促しました。

(5) 施設内で委員会を設けケアの向上を図ります

施設内の課題に合わせた委員会を設け、各委員会が年間目標を設定しその目標達成のために年間計画を立案・実施いたします

各委員会で目標を定め、同じ目標に向けて取り組める環境作りを目指しました。月に1度のMTGで課題を話し合い、それを解決するために施設全体で取り組んでまいりました。

2. 施設行事

別紙1のとおり

3. 職員研修・会議

別紙2のとおり

第七章 フラクタルビレッジ西六郷・羽田・大森南 (認知症対応型共同生活介護)

1. フラクタルビレッジとしての取り組み

(1) 認知症ケアの確立に向けて

認知症ケア向上委員会を中心に、お客様一人ひとりの認知症状に合わせたケアが行えるようにアセスメントを行い、ケアの提供方法などを検討し、実践してまいりました。

また、各施設で野菜などを栽培し、みずやり、収穫、調理などを手伝っていただくことを通して、認知症の予防対策としての取り組みを行いました。日々大きくなる野菜などをみて、会話がはずみました。

日常生活の中では、役割（洗濯をたたむ、ゴミを捨てる、掃除を行うなど）をもっていただき、職員と一緒に役割の作業が行えるように支援を実施しました。

先端技術（介護ロボット）の活用においては、見守りセンサーを必要とするお客様に設置し、転倒予防を図れるよう活用してまいりました。今後もサービスの質の向上や、職員の介護負担の軽減を図れるよう活用していきたいと思っております。

夢プランに関しては、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、少しずつ以前のような取り組みを始めたばかりであったため、今年度は実施を見合わせました。今後は、以前のようにお客様の夢を形にできるように取り組んでまいりたいと考えています。

(2) 社会参加を促し地域の方との交流を図る

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、地域の方との交流を図る機会を少しずつ再開しました。

盆踊りには数年ぶりに参加しましたが、お客様も大変喜ばれており、笑顔が多く見られました。

運営推進会議は、今年度は全て対面で実施しました。地域の方やご家族様にご参加いただき、有意義な意見交換の場になりました。今後もご家族様の参加が増え、意見交換が行えるように、対応してまいりたいと考えています。

2. 施設行事

別紙1のとおり

3. 職員研修・会議

別紙2のとおり

第 八 章 ケアサポートセンターリンクス羽田・大森中 (居宅介護支援)

1. ケアサポートセンター リンクス羽田/大森中としての取組み

(1) 居宅介護支援事業所としての基盤強化

区内で複数の事業所を 2 か所展開し、どちらも地域に定着させることができました。特に羽田は地域包括支援センター羽田をはじめ、糀谷羽田エリアにおいて複数のご相談を頂くことができました。大森中は、エリア内の地域包括支援センターだけでなく幅広くご相談を頂く関係の構築ができています。

地域包括支援センターが主催する地域の勉強会に積極的に参加をし、近隣の事業所と顔の見える関係づくりをすることができました。また、リンクス 2 か所で合同の会議及び勉強会を行い、全体としてスキルアップを図れる取り組みを行いました。

(2) 地域へのアプローチおよび関係機関との連携

業務効率化のため ICT 化に力を入れており、一昨年前に導入したソフト、機器類については全職員が使いこなせるレベルになりました。また、新たなソフトを試用したり、社外の事業所とケアプラン連携システムを試用するなど、さらに効率化させる取り組みを行いました。他社に対しては ICT 機器を使ったコミュニケーションの依頼などを積極的に行いました。

社外の事業所と合同の勉強会が年間 2 回開催され、各自役割を持って参加し、当事業所のスキルアップ、地域のケアマネと切磋琢磨する機会を得ることができました。

管轄地域の地域包括支援センター主催の勉強会に参加し、包括職員のみならず地域のケアマネジャー、民生委員の方などと交流の機会を持つことができました。

(3) ケアマネジメントの質の向上及び業務標準化

職員のスキルアップを目的に、リンクス羽田と大森中合同でケアプラン点検を 4 回行い、主任ケアマネジャーから事例提供者へのアドバイスや指導を行うことで、初任者のケアマネジャーでも一人でケアプラン作成ができるようになっていきます。

ICT 化により 20%の作業時間削減を目指しましたが、大きくは向上せず一昨年と横ばいの状況のため、さらなる取り組みが必要です。

各職員が自身の目標設定を行い、それに向かって取り組むことで、学習の機会を確保したり、それにより適切な帳票作成、相談援助が行えるようになりました。

(4) 法人間でのネットワーク強化

複合型のサービスを展開する法人の強みや社内チャット等 ICT を活かし、お客様がサービスを希望された場合に、スピーディーに調整することができ、安心感や信頼感を獲得することができました。

(5) やりがいと満足感を得られる職場環境の構築

職員のワークライフバランスに配慮できるよう、新たな働き方として在宅勤務や変形労働制による勤務時間の変更等を、柔軟に取り入れ、対応することができました。

管理者との個別ミーティングは 1~3 カ月に 1 回程度行い、管理者は各職員の抱える状況や悩みに配慮できるよう努めました。

定例会議など日々のコミュニケーションにより、各職員が意見や考えを話せる環境づくりを行いました。

第九章 サンタフェ総合研究室

(福祉事業者等への経営支援・社会福祉福祉に関する研究調査・福祉人材育成事業)

1. 事業運営の基本方針（基本理念・方針）

私たち社会福祉法人善光会は、「業界の行く末を担う先導者になる」を理念の一つに掲げ、これまで効率的介護サービス提供モデルの開発や先端的経営手法の導入を行ってまいりました。

令和5年度においても、「経営支援による事業所倒産の抑制」と「当法人の社会福祉事業および公益事業の継続性担保」という、二つの目的の下で福祉事業者等への経営支援事業と社会福祉に関する事業とともに政府等への政策提言を進めました。

また、昨年度に引き続き、加速度的に変化する介護福祉業界環境に対応できる福祉人材を育成するために創設した福祉人材育成に関する事業を展開・拡充したほか、これまでの知見を元に介護施設・介護機器メーカーに対してのコンサルティングサービスの提供も行いました。

2. 事業内容

- ①福祉事業者等への経営支援等事業
- ②社会福祉に関する研究調査事業
- ③社会福祉の増進に資する人材の育成に関する事業

3. 令和5年度の事業内容

(1)介護の持続可能性向上のための政策提言活動

善光会で培ったオペレーションモデルを全国及び国外に拡げることで、国内外の介護の持続可能性と質の向上を実現するべく、立法府・行政府・地方自治体を含めて政策提言活動を実施してまいりました。

例えば、内閣総理大臣の視察受け入れに加え、内閣官房主催のデジタル行財政改革会議や、ケアテック活用推進議連に招聘され、提言を行ったことにより、令和6年度介護報酬改定などで、提言に基づいた政策の改正が実施されました。

(2)施設向けコンサルティングサービスの提供

地方自治体向けの介護事業所支援事業として、介護機器の導入や業務改善の手法を提案・助言いたしました。

(3)介護機器メーカー向け開発支援サービスの提供

介護機器の開発を行う会社様向けに機器の開発における相談や効果検証のための実証実験サービスを提供しました。

